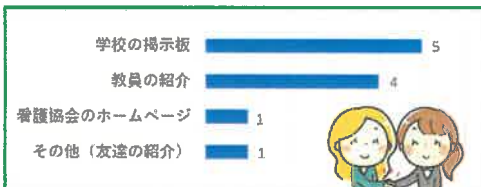




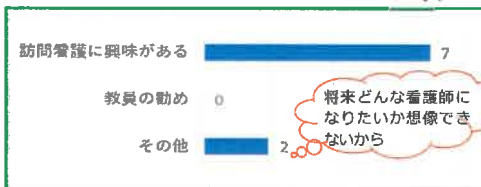
2年間の看護協会立のステーションでの試行を経て、今年度より受入施設を県内15施設に拡大し募集したところ、5校18名の学生の応募がありました。しかし、憎っき新型コロナウイルス。8月に入って、感染の勢いが増大し4施設が受入中止を余儀なくされ、4施設8名の学生の実施にとどまりました。一日も早く終息し、安心して参加できる日がくるといいですね。



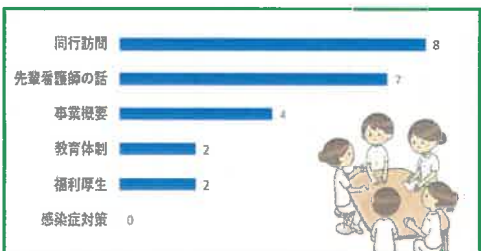
### 1 インターンシップはどこで知りましたか



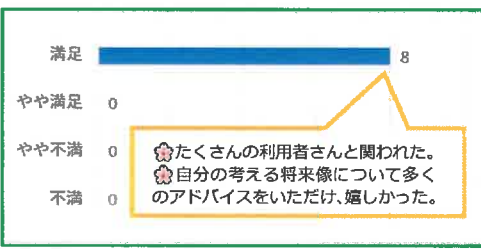
### 2 参加の動機



### 3 インターンシップのどんなところに興味がありましたか



### 4 インターンシップは満足しましたか



### 5 訪問看護ステーションへの就職について



### 受入施設管理者の感想

看護学校に入学した頃の自分を思い出しながら実習生と関わることができ、初心を思い出し、学びの時間を共有することができた (エンパワーライフ)

コロナによって実習が制限される中で、このような機会があれば実際の雰囲気なども体験できるのでよいと思う (あすなる)

初めてインターンシップを受入れ、自分たちの仕事を振り返る機会になった。いつもは利用者様と向き合うことが主だが、若い学生さんに関わることで気持ちが新たになった。 (葉の花)

私達にできることは僅かなことですが、「訪問看護が楽しかった。看護っていいな。」と思ってもらえるよう先輩として働きかける機会になったと思う。 (なごみの郷)

### 学生のつぶやき

自分の夢なのに、大学では決められた講義を受けることしかしてきませんでした。しかし、この夏にはじめて自ら興味のあるものに時間を割き、積極的に行動してみようと思いました。看護学生なのにまだ医療を提供する者としての自覚が芽生えていなかった中で、こんなにもステーションの皆さんがかっこよくキラキラ活躍されているのを目の当たりにし、四年後の看護師としての自分自身が楽しみになりました。訪問看護の世界が覗けてよかったです。 (大学1年生)

訪問看護師で働く看護師の方々の話を詳しく聞くことができ、とてもよい機会になりました。将来訪問看護師になりたいと思い参加したインターンシップでしたが、自分のやりたい地域密着型の看護とあっていると実感したので、臨床経験を積んで、就職したいと思います。 (大学3年生)



### 訪問看護ステーションで活躍するスペシャリストたち

新型コロナウイルスにより病院や施設では家族との面会が制限されるようになり、訪問看護ステーションでの看取りが増加しています。また、医療依存度の高い利用者さんが多く在宅療養をされています。令和4年度の診療報酬の改定では、専門性の高い看護師による訪問看護が評価され、専門管理加算が新設されました。県内のステーションでは、多くのスペシャリスト達が活躍しています。

#### シリーズ第2弾 がん性疼痛看護認定看護師

勤務先: ほと・はあとステーションでのひら (呉市広本町)  
2004年 がん性疼痛看護認定看護師資格取得  
2015年より訪問看護に携わる

### 和田 美香 さん



#### 緩和ケア認定看護師の資格を取得したきっかけはどんなことでしたか。

看護学生の頃よりがん終末期医療に興味を持ち、緩和ケア病床を有する病棟に就職しました。5年目より緩和ケア病棟に勤務しましたが、まだオピオイドの種類も少なく、医師と共に試行錯誤しながら働いていました。自身の知識・力不足を感じ、研修にも積極的に参加しましたが、日々の看護には活かせていないと感じていました。専門知識をもつことで、エビデンスに基づいた看護支援が行えること、日々のケアに悩んでいる後輩看護師の力になりたいと思い、認定養成研修に参加しました。



#### 訪問看護師になったきっかけをお聞かせください。

緩和ケア病棟に勤務していた時、予後数日と思われた患者さんがご本人ご家族の希望により退院されることになりました。住み慣れた自宅で命を終えることを希望する方がいること、それを支える訪問看護師の存在を知りました。育児休暇後、一般内科病棟に復帰しましたが、子供の成長と共に病院勤務が難しくなり退職を決めました。その時、チャレンジするのは今しかないと思い、以前より興味のあった訪問看護ステーションへ転職を決めました。

#### 訪問看護ステーションでの普段のお仕事の様子をお聞かせください。

毎日、5~6件のお宅に伺い利用者・ご家族の支援を行っています。当ステーションは医療処置の必要な利用者も多く、看護師同士で情報を共有しながら同一のケアが実施できるよう心がけています。今後の療養場所の選定や自宅看取りの意思の確認などの意思決定支援にも携わっています。



#### 訪問看護のなかで、資格はどのように活かされていますか。

資格というよりもこれまでの経験が活かされていると思います。がん性疼痛認定看護師として、がんのこと、がんという病がもたらすご本人、ご家族への影響、がん患者の心理過程やコミュニケーションについて繰り返し学んできました。その学びがあるからこそ、今やりがいをもちて仕事に取り組んでいると思います。症状コントロールが必要な利用者さんが、ご自宅へ戻ると症状が軽減したり、夜間の睡眠がしっかりとれるようになったり、住み慣れた我が家での生活がもたらす良い影響もたくさん見えてきました。大事なご家族を、近い将来喪う不安や痛みに寄り添い、医療者としての冷静な視点を持ちながらご家族の成長を促す存在でありたいと思います。

#### 最後に、今後の抱負や、訪問看護師を目指す方へのアドバイスをお願いします。

がん性疼痛看護認定看護師として、最新の情報を更新しつつ、褥瘡ケアや家族ケア等、さらに勉強していきたいと思っています。職場で実習も担当していますので、自身の経験を学生に伝えていければと思っています。看護師という職業は働く場所や仕事内容、働き方など自分の持つ力や努力次第で可能性が無限に広がる職業だと思います。興味がある分野にどんどん飛び込み、知識を増やしていきましょう。その知識が自信になり、キラキラ輝く看護師になれると思います。



訪問看護に興味のある学生さんへ  
今回のインターンシップは令和5年の3月です?  
ぜひご参加ください。

